

# 安全・環境報告書の評価

## 第三者による検証

環境報告ガイドライン2012年版との対照表

環境報告の記載事項	2016記載頁	記載がない場合の理由
<b>環境報告の基本的事項</b>		
1. 報告にあたっての基本的要件 (1) 対象組織の範囲・対象期間 (2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異 (3) 報告方針 (4) 公表媒体の方針等	目次 目次 目次 目次	
2. 経営責任者の緒言	1	
3. 環境報告の概要 (1) 環境配慮経営等の概要 (2) KPIの時系列一覧 (3) 個別の環境課題に関する対応総括	13~26 41~44 40、45	
4. マテリアルバランス	40	
<b>「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標</b>		
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等 (1) 環境配慮の方針 (2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	27 28、29	
2. 組織体制及びガバナンスの状況 (1) 環境配慮経営の組織体制等 (2) 環境リスクマネジメント体制 (3) 環境に関する規制等の遵守状況	27~31 28、31 51、52	
3. ステークホルダーへの対応の状況 (1) ステークホルダーへの対応 (2) 環境に関する社会貢献活動等	8~12、58、59 2~12、58、59	
4. バリューチェーンにおける環境配慮の取組状況 (1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等 (2) グリーン購入・調達 (3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等 (4) 環境関連の新技術・研究開発 (5) 環境に配慮した輸送 (6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等 (7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	46~49 46~48 - 8~12 - - 35~37、45、49	非製造業 非製造業 非製造業
<b>「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組みに関する状況」を表す情報・指標</b>		
1. 資源エネルギーの投入状況 (1) 総エネルギー投入量及びその低減対策 (2) 総物質投入量及びその低減対策 (3) 水資源投入量及びその低減対策	40~45、47~49 40~48 40、41、43、45	
2. 資源等の循環的利用の状況（事業エリア内）	45、49	
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況 (1) 総製品生産量又は総商品販売量等 (2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策 (3) 総排水量及びその低減対策 (4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策 (5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策 (6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策 (7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	- 40、42~45、47~49 40、41、43 40~45 35、37、40 35~38、40、42、43~45 35~38、40	非製造業
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	8、15、27、37、49	
<b>「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標</b>		
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況 (1) 事業者における経済的側面の状況 (2) 社会における経済的側面の状況	25 -	非製造業
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	54~59	
1. 後発事象等 (1) 後発事象 (2) 臨時的事象	無し 無し	
2. 環境情報の第三者審査等	60、61	

上記、「第三者による検証」は海洋研究開発機構の「安全・環境報告書2016」の信頼性の向上のために外部の専門家（検証者）による「環境報告ガイドライン2012」との整合性の検証の結果です。検証の結果、該当する項目については整合していることを確認しました。整合性の検証は今回で4年目となり継続して報告書の信頼性向上に努めていることを評価します。また、今回、検証員が注目した記事は以下の通りです。  
 (イ) インターシップによる本報告書の査読評価、感想の掲載。  
 (ロ) 昨年度のCO<sub>2</sub>排出量の大幅な削減、実験室内の事故・トラブルをゼロとするなどパフォーマンスの向上に関する掲載。  
 (ハ) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおける暑熱環境の懸念について貴機構が開発したシミュレーションモデルによる風の流れ、緑地の効果などの解析が暑熱環境対策の強力なツールであることの紹介の掲載。

2016年9月

津上 昌平

・環境マネジメントシステム審査員（CEAR）  
 ・技術士（環境部門）  
 ・環境カウンセラー（事業者部門）

「JAMSTEC安全・環境報告書2016」によせて

# 第三者意見

2016年9月

株式会社マリン・ワーク・ジャパン

経営企画部 経営管理室 専門室長

## 田中 紀夫 氏



「JAMSTEC安全・環境報告書」の発行も今年で11年目を数え、過去10年間の報告書をあらためて拝読いたしました。

JAMSTECの研究開発成果は、日頃から深海映像や地球温暖化に迫る海洋循環シミュレーション映像、更に大規模地震時の地下構造シミュレーションデータなど、マスメディアを通じて一般の方々にも広く報道されるようになりましたが、日常生活との関わりが実感できるものとは、まだ言い難いのも現実ではなからうかと思えます。

「JAMSTEC安全・環境報告書2016」では、「理事長ごあいさつ」にもございます通り、近年では様々な事故・トラブル対応を教訓とした安全活動、ならびに環境配慮活動の結果が、年を重ねるごとに充実されてきた事が理解できました。またそれらの内容は、見える化されており、広く一般の方々にもJAMSTECにおける年々の取り組みをご理解いただけるものと思えます。「研究紹介」、「安全衛生及び環境配慮に係る基本方針」に基づく体制とその実績は、数字やグラフを用いて表現されており、多くの方々にもより理解しやすく身近なものになっていると考えます。二酸化炭素排出量14%減を果たしたJAMSTEC所有のスーパーコンピュータ（地球シミュレータ）を用いて実施された研究成果の例として、「特集1 東京湾臨海部の緑地の効果を解析」の環境省および文部科学省からの協力要請に基づく「東京都市圏における環境対策のモデル分析検討会」との連携による2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした暑熱環境対策の解析結果が掲載され、東京臨海部における緑地整備効果の有効性が確認された旨の報告があります。これにより、東京オリンピック・パラリンピック等の、一般の方が注目されているものにもJAMSTECの研究成果が関わっていることを強く実

感しました。

昨今、地球温暖化や異常気象の発生、大規模地震など、今まさに世界で対応が求められる課題は、時代が求める非常に複雑で難しい問題です。JAMSTECの最先端研究は、これらの課題に対して必要不可欠な取り組みであると共に、その成果は大きな社会貢献に他ならないと考えます。

「JAMSTEC安全・環境報告書」をご覧になった方は、最先端技術を有するJAMSTECの研究開発の成果が、エネルギー投入量と排出量のバランスやグリーン購入などの地道な活動に対して取り組み等によってもたらされていることを理解できると思います。

今後とも、安全活動や環境配慮活動に取り組み、さらに社会のニーズに貢献されることを願っております。

末筆ではございますが、JAMSTECが地球を支える最新の技術開発を発展させ、大きな研究成果を挙げられることを期待すると共に、弊社においても、JAMSTECと同じ方向に向かって全力で地球規模の難題への取り組み継続してゆく所存でございます。

## インターンシップ生から



静岡県清水港停泊中の地球深部  
探査船「ちきゅう」船上にて

私は大学で受けてきた講義の中でも「環境問題」に関して興味がありました。そこで、資源や人類の持続可能性と密接な関わりのあるJAMSTECのインターンシップに参加させていただきました。

私は、本報告書の環境パフォーマンスデータの推移の分析と原稿作成という業務を行いました。その中では、“焦点の当て方”に苦戦しました。JAMSTEC全体での傾向などを捉えようとする中で、細かいデータに捕らわれそうになってしまうこともありました。指導員にご指導やアドバイスを頂きながら、分析を進めた結果、数値の増減の大半は、研究内容やその日数による変動が要因であることが見えてきました。

ただ、細部のデータも見えていくと、業務において節電や節水など取り組みも行われており、職員の方の環境に対する意識が感じられました。しかし、本報告書で示されるものは組織でのものであるため、個々人の取り組みというものの影響は非常に見えにくくなります。ですが、組織というものは個々人から成り立っており、そのような“個々人の意識”が、最終的にはJAMSTECという組織全体に正の影響を与えているのではないかと私は感じました。

本報告書は環境配慮促進法に基づいたものに加え、独自に安全に対する内容も取り入れられています。このことは、持続可能な社会の実現につながるだけでなく、JAMSTECという一組織が持続していくためにも重要なものでもあったと思います。

インターンシップを通じて、これまでの私は大学などでは学問として理解することに留まっていたように感じました。今回、社会での現状を学ぶという貴重な経験を通して、学問としての学習から社会にも視野を広げた学習に取り組んでいきたいと感じました。さらに、今後は身近にある大学をはじめ、様々な組織や企業などが行う環境活動などにも視野を広げた学習を取り入れていこうと思いました。

最後になりましたが、インターンシップの期間、丁寧にご指導を頂いた指導教員の桃井副主任・青柳副主幹をはじめ、日常を通じて多くの知識や示唆を頂いた安全・環境管理室の皆様、JAMSTECの皆様がこの場をお借りして感謝申し上げます。

関西大学 社会安全学部安全マネジメント学科3回生 上野咲映里